

令和 8 年度 館腰公民館講座「共生社会へのステップ 3」第 1 回講座が開催されました (2026/8/27)

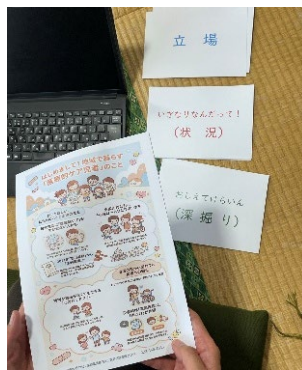
テーマ：医療的ケア児者、共生社会、心のバリアフリー、災害時の避難・備え
会 場：館腰公民館

名取市における地域づくりの一環として、令和 8 年度館腰公民館講座「共生社会へのステップ 3」の第 1 回目が、2026 年 8 月 27 日（木）10:00～12:00 に館腰公民館にて開催されました。本年度の全体テーマは「住みたいまちで暮らせる地域づくり」（医療的ケア児者）であり、障がい、文化・民族、性別・ジェンダー、職業やライフスタイルなどの多様性に富んだ社会の中で、お互いを理解しあい、誰もがウェルビーイング（Well-being）に暮らせる社会の実現を目的としています。

本講座第 1 回目は館腰公民館と名取市基幹相談支援センターが共催し、災害公衆衛生学分野の遠山裕湖特任准教授（客員）が所長をつとめる宮城県医療的ケア児等相談支援センター「ちるふぁ」が協力として講義及びグループディスカッションを請け負ったものです。この講座には、上廣防災学寄附研究部門の高橋利恵子助手もスタッフ兼参加者として加わりしました。一般市民および福祉事業所スタッフを対象に「障がい者との関わりについて本音で語ろう」をテーマに実施されました。講座は、遠山特任准教授（客員）から、「医療的ケア児者（日常生活でのたんの吸引、人工呼吸器管理、胃ろうなどの医療的ケアが欠かせない方）」の地域生活のご様子や課題について動画や資料を用いた講義から参加者は理解を深めていました。また、災害時において医療的ケア児者の命を守るための具体的な備えについても踏み込みました。人工呼吸器をはじめとする医療機器を動作させるための「電源確保」は、災害発生時における文字通りの生命線であることや、停電時における外部電源供給体制の確立、予備バッテリーの備えについて、緊急時の「声かけ」の大切さなどが改めて共有されました。グループディスカッションでは、それぞれが他者の立場になって話し合うカードゲームを用い、当事者の立場になって初めてご家族の声の挙げづらさに気付いたといった参加者や、平時から「顔の見える関係づくり」を地域の中で育ておくことの重要性に改めて考えることができたという参加者などの活発な意見交換がなされました。



ちるふぁのスタッフと
遠山特任准教授（客員）（右端）



資料とカードゲーム



講義の様子